

産学連携とは

—琉球大学・沖縄国際大学・沖縄工業高等専門学校・沖縄科学技術大学院大学(OIST)で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：沖縄県には何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)1月21日と22日の2日間、公益社団法人経済同友会(東京)の教育問題委員会(委員長は北山禎介・三井住友銀行取締役会長)の沖縄県内の大学等視察団11名の一員として、大学・高専・大学院大学合計4つの高等教育機関を視察し、大学幹部やそこで学ぶ大学生と意見交換をするために沖縄県を訪問しました。
- (2)経済同友会の教育問題委員会では、ここ2年間、高等教育について調査・研究。2012年3月26日に「私立大学におけるガバナンス改革—高等教育の質の向上を目指して」と題する提言を策定・公表(www.doyukai.or.jp)後、産学連携に取り組んでいます。昨年秋から大学を訪問し、理事長や学長、学部長などの大学経営幹部、産学連携担当教授、学生との意見交換をスタート。今回は、上智大学、立教大学に次ぐ3番目の訪問でした。

Q：4つの高等教育機関では何を学び、考えましたか。

A：(1)学生数9571名、教員数859名、職員数828名(附属小・中学校を含む)の琉球大学は、戦火で焼失した首里城跡に米国・ミシガン州立大学の指導を受けて昭和25年に開学。昭和54年に教育学部、法文学部、理学部、工学部、農学部、医学部を擁する総合大学、平成16年には国立大学法人となり、その後、法科大学院と観光産業学部を設置、今日に至っているそうです。

国立大学法人として沖縄の発展に寄与する大学としての役割を果たすという強い使命感(ミッション)が感じられました。そして、日本とアジア諸国の架け橋となる人財育成に励んでいるように思えました。

(2)学生数5815名、教員数409名、職員数95名の沖縄国際大学は、昭和48年に開学。法学部、経済学部、産業情報学部、総合文化学部と大学院から成り、「真の自由・自治の確立」を建学の精神にしています。

学長、教授陣、学生ともに沖縄の発展に貢献するためには何ができるかを極めて積極的に考え、文化・歴史を大切にしながら、できるところから具体的に行動を起こしているように感じました。

(3)学生数853名、教員数64名、職員数42名の沖縄工業高等専門学校は、国立で55番目の高専として平成10年に開学。5年制の機械システム工学科、情報システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科と2年制の専攻科では、ものづくり(エンジニアリング)や研究支援を担う高度な技術者を輩出し、また、IT系の人財育成に強みを持ち、沖縄に進出するIT系企業とインタ

ーンシップなどの連携を行っているようです。

学生寮による全人教育や、大多数が博士号を持つ教授陣が行う 5 年間一貫の少人数制教育は、高い IT スキルを持つ高度人材育成に役立っているようです。

(4)18 の国・地域からの 34 名(うち外国人 29 名)の学生(第一期制)と教員 46 名(うち外国人 31 名)を含め、約 30 の国・地域からの計 270 名(うち外国人 119 名)が研究に従事する沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、平成 24 年 9 月に開学した大学院大学です。

沖縄県において世界最高水準の教育研究を行うことにより、沖縄県の自立的発展と世界の科学技術向上に資することを目的としています。

OIST は 5 年間一貫、共通語は英語の博士課程のみの最先端の大学院大学で、教授陣も学生も型にはまらずに自由な発想で世界や日本、そして沖縄県の発展のために何ができるかを考え、研究活動に没頭しています。

Q：4つの高等教育機関を視察し、学習塾・予備校・私立学校の経営幹部や先生方にお伝えしたいことはありますか。

A：(1)小・中・高校生の進路指導をする際には、教え子である児童・生徒やその保護者に偏差値による学校選択を行うことはそろそろ少なめにすることを御提案します。

(2)偏差値も大切ですが、地元や日本国内にある様々な高等教育機関の特色を目を皿のようにして認識する努力をすべきと考えます。

(3)例えば、今回訪問させて頂いた沖縄県の4つの学校はいずれも極めた特色を有しています。学長はじめ先生や職員の皆様は設立の目的を果たし、世界や日本、そして地域の発展のために産業界と連携を果たし、人材育成をしようと懸命の努力をなさっています。

(4)沖縄県だけでなく、日本各地の大学・短期大学・専門学校・高等専門学校・大学院も自らの設立趣旨や社会的使命を見つめ、産業界と連携を図りながら、世界や日本、地域を担う人材育成を必死に行っています。

(5)学習塾・予備校・私立学校の経営者や先生方には、どの学校でどのようなことを行っているかの目利き(めきき)になって頂き、本当の意味の進路指導をなさって頂きたいと御提案します。

(6)私も、地元である北関東の高等教育機関の理解に努めます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：私がお勧めしたい今月の一冊は、我らの大先輩である森本一先生著「進学塾創業者、全国塾長烈伝―それぞれに壮烈、塾に賭けた31人の創業者たち―」JS コーポレーション 2012 年 11 月刊です。文字通り、森本先生がカメラマンの方とともに全国を訪ね歩いておまとめになられた渾身の一冊です。私も取材をお受けしましたが、森本先生の塾業界に懸ける熱意には頭が下がりました。

私は、月刊私塾界とともに毎日少しずつ読ませて頂いております。是非御一読を。